

10

▶ **Revolution means revolutionary consciousness.**

na



現在、世界では金融不況、地球温暖化、人口爆発、食料危機などが起き、それに伴い経済の潮目も変わったと言われています。

これらは産業革命以降、経済を拡大し消費することが発展の原動力とされるなか、エネルギーを無限に使ってきたことに対する当然の帰結です。消費エネルギーを抑え、文化のエネルギーと創造の力で世界を変え、人々の生活を考える、本当の人類の英知が必要な時期が来たといえます。

TOKYO DESIGN FLOW はこのような問題意識のもと、都市の状況や人々のライフスタイルそのものをデザインの対象としてとらえ、それら全てのデザインを覆う傘となり、大きな流れを創り出す運動体となることを目指します。

TOKYO DESIGN FLOW は一つの事象を表すものではありません。

東京を中心にデザインを取り巻く状況を、マンスリーイベント「LAST THURSDAY」をはじめとするリアルイベント、ウェブサイト、紙媒体などを通し情報を発信していきます。

Design & philosophy



革命とは革命的な意識にある

革命。それは一日にして社会がひっくり返ることを言う。

世界同時革命。それは世界中で全ての価値観が逆転することを言う。

そう考えると今、我々の前に求められているのは革命ではないのだろうか。

それは薄っぺらでとっくに終わっている、共産主義対資本主義とか、社会主義対自由主義と言ったものではなく、現代の革命はもっと深く、人類文明の方向に対する警鐘の意味を持つであろう。

イタズラに暴力を振るうのではなく、しかし勇気を持って、創造的に社会を根底から考え直し、もう一度夢を持つことができるように作りかえていくことではないか。

そこには僕等が到達した地平、デザインと文化の美意識を持った生活から出た叡智は役に立つのだろうか。

むしろ無限の情報と多様な思想を組立て直し、編集し直して新しい世界観を構築するという大きな仕事が待っているのではないか。

それが成功すれば人間は賢明な生き物として始めて歴史上自然とまともに対峙することができるのではないか。

東京というキャンパスで僕等は考えて、ささやかながら毎月こうして問いかけている。

このまま何の覚悟も決意もなく無為に年を迎えることが難しく感じて、僕等は革命とはそもそも何なのか、何が日本の文化の本当に強いところか、何が世界にとって必要なのかを考えずに年を越すことができないと思い、このペーパーを制作した。

革命は今そこにある。革命とは革命的な意識を意味する。

どうも！MAT.です！今月はテーマが「革命」ってことですけども……。あ、そうそう、僕が働いている会社には「世の中にインパクトを与え続ける」っていうひとつのテーマがあるんだ……。ってか、僕が個人的にそう思ってるだけなんだけど。ある種、革命を起こし続ける、っていうかね。最近会社のみんなとも話したんだけど、今年は世界規模でいろいろとあったでしょ。特に経済。歴史を振り返るとさ、そういった時に革新的なこと、革命的なことって起こってきたと思うのね。だから、いまはまさに革命前夜なんじゃないか、って思うわけさ……。って、ごめん。なんか世界史の先生みたいな感じになっちゃって……。え？ 悪くないって？ あー、そう！？ 世界史好きなんだ？ 偶然！ 僕も好きだよ。あ、じゃあさじゃあさ、今度、「世界史について語る会」をしようよ！ どう？ ……あ、そうか、忙しいもんね。ごめんごめん……。やっぱ、僕らの関係に革命は起こせなかったか……



MAT.



いま、「革命」

2009年から2010年に変わる。振り返って2009年は何が起きただろうか。年が明けて最初の人々が注目したのは、アメリカ合衆国バラク・オバマ大統領の就任式だろう。「CHANGE」を掲げて大統領選挙を勝ち抜いた彼への期待は大きく、「今年は何かあるぞ」と思わずにはいられない年明けだった。政治の話を続ければ、8月日本でも大きな変化があった。長年政権を握り続けた自民党が陥落し、民主党が圧勝。政権交代が実現した。オバマ大統領も民主党もいまは変化の混迷の中にいる。それが光となるか闇となるかがわかるのはもう少し先になるだろう。経済に目を移すと、いまだ不況からは抜け出していない。テレビCMはパチンコと消費者金融が多く目につくようになり、出版業界では広告収入が激減し、（要因は他にもあるが）休刊・廃刊、果ては倒産が相次いだ。環境問題も深刻さが増している。地球環境、地球資源の現状を示すデータは、未来に対する恐怖心を日々増幅させている。ニュースから聞こえてくるのもネガティブなことばかりだ。そんな中で人々は、自分の生き方を考えざるを得なくなってきている。いま自分は何をすべきなのか。

とは何か？

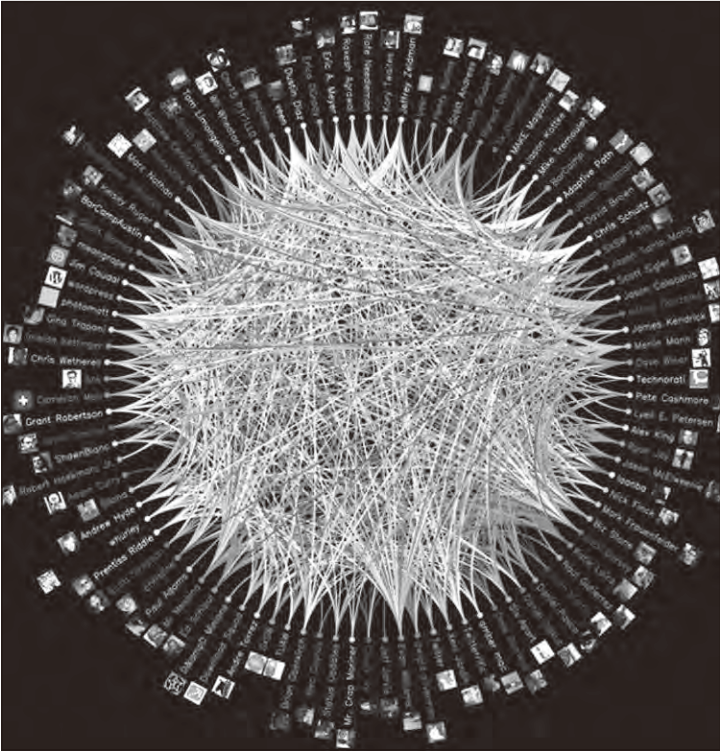
「革命」と聞いて何を思い浮かべるだろうか。チェ・ゲバラ、孫文、はたまたレーニンだろうか。革命という言葉は、第一義的には「支配者階級が握っていた国家権力を被支配者階級が奪い取って、政治や経済の社会構造を根本的に覆す変革」を指す。歴史上こうした闘争が世界中でなされてきた。そして革命は、既成の価値や制度を根本的に変化させること、とも言うことができる。産業革命やIT革命が、それにあてはまる。2009年から2010年に変わるいまとなって、これから革命が起こるとしたら、どんな革命があるだろうか。なかなか想像がつかないかもしれない。しかし、世間が言い知れない不安に満ちているいまだからこそ、そこから抜け出す新たな価値観が生まれ、現代の革命が起きるのではないか。いま革命とは、未来を見つめ、現状を客観的に捉えた本当の人間の知性から生まれる「革命的な意識」なのではないか。その意味での革命は、個人やグループ関わらず、様々なジャンルで静かに狼煙を上げている。「革命前夜」。個々の革命的な意識の総体が地球を、社会を、悲観的な現状から本質的な革命の成功に導いていくと信じて。

Revolutionary consciousness

パートタイム革命講座

アイロンをかけながら世界を変える方法

text: 鈴木菜央 (@suzukinao, greenz.jp編集長)



一般的に「革命家」と言えば、いつの時代も、家族を捨て、友を捨て「身を投じる」ことで世界を変えてきた人々のこと

だ。ところがいま、まったく新しい「革命家」が現れているのをご存知だろうか？それが、「パートタイム革命家」だ。「パー

トタイム革命家」は家族も友も、捨てない。仕事をこなし、人生を楽しみ、そして世界を変えていく。一人ひとりの力はバラバラで小さくとも、その力が集まり、世界に本当の「革命」を起こしつつある。

筆者がこの「パートタイム革命」というコンセプトを思いついたきっかけは、ある女性Twitterユーザー（文末参照）のつぶやきだった。イラン騒動がマスメディアに登場するかなり以前より、「水平射撃が始まった!」「死者が出たようだ」などのイラン市民の生々しい声をいち早くRT(転送)して、多くの人と積極的に議論していた。彼女のフォロワーにはジャーナリストやマスメディア関係者も多く含まれ、相当な影響力をもっているようだ。しかしアイコンはどう見ても中年の主婦。疑問に思った私はプロフィールをチェックしてみたところ、「3人の子持ち」などと書いてある。彼女らの生活を想像すると、子どもの送迎、食事の準備、アイロンがけ……忙しい日常の合間を縫って、自分の信じる平和な未来をつくるため、日夜情報発信しているに違いない。そこで気づいたのだ。社会を変えるのに、どこにいるかは関係ない。職業がなんであるかも関係ない。世界はアイロンをかけながら、変えられるのだ!

つまり、この新たな「革命」の主な舞台は、ソーシャルメディアである。そもそもメディアは文明の血液のようなものだと言われている。情報や知識、知恵が伝えられ、議論されることで、人類は日々の暮らしを成立させ、そして未来へと歩みを進めることができる。その役割のほとんどを、かつてはテレビを頂点としたマスメディアが担っていた。だが、その「ピラミッド型」構造は音を立てて崩壊しつつある。

一方、Twitter、Facebook、Blog、YouTubeなどのソーシャルメディアが網の目のようにつながった「ウェブ型」のメディア生態系は爆発的な勢いで拡大を続



業には「熱意を持った市民が何人か集まれば、世界は変えられる。それ以外の方法で変わった例はない」とある。今の時代に合った言葉に言い換えれば「ケータイ、ソーシャルメディアのアカウント、そして世界を変えたいという意志があれば、世界は変えられる」。どこに住んでいても関係ない。職業がなんでも関係ない。あなたもこの新しい「パートタイム革命」に参加してみても、いかがだろうか？

お知らせ：パートタイム革命家コミュニティに入りませんか？

筆者はパートタイム革命家になりたい人、さらに向上したい人向けに、ユーザー同士で有効な情報やノウハウを共有できるコミュニティ「パートタイム革命講座」を立ち上げた。Twitterアカウントを持っている人は、@pt_socialchange をフォローするだけなので、ぜひフォローしてください。

パートタイム(Twitter)革命家リスト

@stephhicks (フォロワー数:6000人以上) はママ数人で peachygreen.com というグリーンライフスタイルに関するメディアを立ち上げている。また、@ConfessionsMom (フォロワー数:4200人以上) はママ数人でConfessionsMom.com (告白ママの意)というサイトを開設して環境・社会問題について積極的に発言・議論している。また @AnitaDFiouris に至っては、フォロワー数4万3000人に上る。

Nao Suzuki
greenz.jp 編集長。株式会社 biopio 代表取締役。76年バンコク生まれ。6歳より東京で育つ。高校卒業後、阪神淡路大震災のボランティアを経験、東京造形大学卒業。卒業後自給自足コミュニティでの農耕の生活を経験。コンサルタント会社にて2年勤務、02年より3年間「月刊バコ」にて編集・営業として勤務。05年に独立、06年「持続可能で平和でわくわくな未来」をテーマにしたウェブマガジン「greenz.jp」(http://greenz.jp) を公開。メディアを通した持続可能な社会を目指す。

Another World is More Possible w／R水素

R水素が世界を変える理由とは

text: 兼松佳宏 (greenz.jp / R水素ネットワーク)

- 01. R水素社会になると、枯渇しないエネルギーを地産地消できる
- 02. R水素社会になると、一極集中型から分散型へ社会構造が変わる
- 03. R水素社会になると、政治が身近になる
- 04. R水素社会になると、火力発電所や原子力発電所が減る
- 05. R水素社会になると、戦争が減る
- 06. R水素社会になると、難民や貧困が減る
- 07. R水素社会になると、空気がきれいになる
- 08. R水素社会になると、世界中のクルマをエコカーにできる
- 09. R水素社会になると、グリーンな雇用が生まれ、地域が活気づく
- 10. R水素社会になると、意識がポジティブにシフトする

「グリーンな仕事为世界を変える」「おカネが変われば世界が変わる」「オープンソースが世界を変える」など、“世界を変える〇〇”をググると、たくさんヒットする。それだけ世界を根本的に変えてしまうような、「革命」のための糸口はあまねく用意されているのだ。そしてグリーンズはひとつのアイデアとして、「エネルギーが変われば、世界が変

わる!」と考えている。エネルギーを分解すれば、熱や電気、燃料のこと。それは現代に生きる人間が生活する上で、必要な衣食住と並ぶ大切なインフラだからだ。そして特にフォーカスしているのがR水素だ。greenz.jpのメンバーを中心にR水素を広めるNPO“R水素ネットワーク”を設立し、具体的なプロジェクトがいくつか

始まっている。とはいえ、水素自体がまだまだ聞き慣れないし、ましてRってどういうこと?という方もほとんどだろう。そこで、R水素はそもそも何なのか、何故世界を変えうるのか、簡単に紹介しよう。

水素って? Rって?理科の実験でもやったことがあるだろう水の電気分解。そこから生成される元素記号Hは、宇宙で最も豊富にあり最も軽い元素だ。水(H2O)、プロパン(C3H8)、アンモニア(NH3)など身近なものにも水素は多く含まれている(水の中にあるということは、レストランで飲む水にも、当然君のカラダの中にもたっぷり含まれている)。太陽の膨大なエネルギーを生み出すほど宇宙ではなじみの水素だが、地球上でも使い道はいろいろある。特筆すべきはエネルギーを貯めることができる、ということだ。太陽が出ていないときでも燃料電池があれば発電することができる。例えばデンマークのロラン島では、風力発電でつくられた電気が余っているのので、その電気を活用して水素をつくって供給し、燃料電池で熱と電気をつくることで、世界初のR水素コミュニティ(!)を構築しようとしている。他にも身近なところでは、ガソリンの代

わりに水を燃やしてクルマを走らせることも可能だ(既に東京都市大の水素エンジン車が公道を走っている)。船や飛行機を動かすことも、銭湯を沸かすこともできる。そうやって燃料として使っても、電気と水とごく微量の窒素しか発生しないので、枯渇しないサステナブルなエネルギー源とされているのだ。では、Rとは何か? R水素の“R”はリニューアブル=再生可能の意味で、原子力や化石燃料を使わず、太陽光や地熱など枯渇しない自然エネルギーを使ってつくった水素のことだ。結局水素を作るために、天然ガスや原子力のような(国家戦略や大きな企業しか参入できないという意味で)中央集権型で、局所に限定的で争いの種になること。なおかつ北極海の底からわざわざ採掘したり、何万年も害が残る放射性廃棄物を残すような、地球に負荷がかかるエネルギーを使っているのでは、何も変わらないだろう。一言で言うなら、R水素社会では「エネルギーを争う必要がなくなる→戦争がなくなる→貧困や難民がなくなる→みんなハッピーになる!」というポジティブなループが始まる可能性がある。それがR水素が革命的であり、「ザ・シンプルソリューション」と言われる所以だ。今後ますます、水素がメジャーになっ

ていくとき、RなのかRでないのかが重要なポイントとなる。それは社会のコンセプトをどうするのか、というそもそも論に踏み込む問いかけなのだ。21世紀の人々は、エネルギーを自分でつくる世代だ。そうやって有限のものを争う必要がなくなることで、ココロに余裕が生まれ、そうして初めてあらゆる人々のポテンシャルを解き放たれるだろう。エネルギーが変わらなければ、世界は変わらない。R水素ネットワークは、あらゆるチェンジメーカーと共闘／共鳴できるプラットフォームなのである。



「R水素が世界を変える10の理由」※詳しくはウェブサイトをご覧ください。http://rh2.org/chapter01_03/

Yoshihiro Kanematsu
79年秋田生まれ。クリエイティブディレクター／グリーンジャーナリスト。“ソーシャルクリエイティブ”をテーマに、アースディマナー、Merry ProjectなどNPOのウェブ制作に関わり、2006年にgreenz.jpの立ち上げにウェブデザイナーとして参画。現在はgreenz.jp共同代表、R素塩ネットワーク理事、株式会社ビオビオ取締役として、ウェブディレクションやイベントプランニング、執筆活動などを行っている。http://greenz.jp/

Revolutionary consciousness

ビット革命

アトムからビットへ

text: akio0911 (media-fashion.net)

ネットにおいて、多数のサービスが無料で提供されている。Googleによる検索サービス。大容量メールサービスGmail。サービスを無料で利用できるのは、もはや常識である。しかし、これらのサービスを無料で提供している企業は何故収益を上げることができるのだろうか？まず例として、電子書籍デバイスであるKindleについて考えてみよう。Kindle最大の特徴は、携帯電話網を利用することで、PCを介さずにデバイスから直接書籍をダウンロードできる点にある。この手のデバイスを利用する場合、大抵は電話会社との回線契約が必要で、月額使用料などがかかってしまう。しかしKindleの場合、

ユーザーは電話会社と契約を結ばずに、ネット経由で書籍が購入できる。かかるのは電子書籍の購入代金だけだ。Kindleでは電子ブック、新聞などの価格に通信料を上乗せし、トータルで収益を出せるような仕組みを作っているのだ。いつでもどこでも32万冊の中から試し読みが可能で、必要であれば瞬時に書籍を購入できる。月額使用料などは気にする必要がない。これらの特徴が快適な読書体験をもたらしてくれる。

次にフリーミアムというモデルについて取り上げてみよう。フリーミアムにおいては、基本的なサービスを無料で提供し、高度なサービスについては有料で提供す

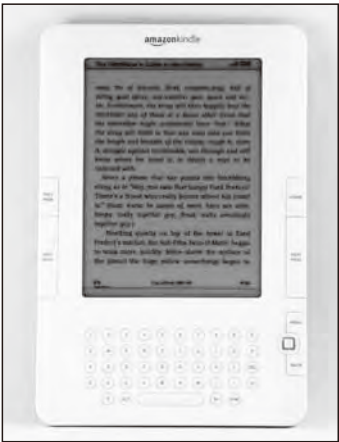
る。そして全体として収益を発生させる。スカイプというネット電話サービスがあるが、コンピュータ間での会話は無料である。しかし、コンピュータと電話の間での会話は有料である。ケータイ向けSNSとして有名なグリーは、ゲームを無料で提供し、アバターを有料で提供する。フリーミアムは「無料」「割増」という2つの面を持っている。これらを表す「フリー」「プレミアム」という2つの単語を組み合わせた言葉が「フリーミアム」である。「試供品を配って買ってもらう」というマーケティング手法は古くから存在するが、その場合は95%の人に買ってもらっていたようだ。しかしネット上のフリーミアムモデルにおいては、95%を無料で提供して、5%の人にプレミアム版を買ってもらうような比率（フリーミアム・レート）に変化している。

何故比率が変化しても収益を上げることができるのだろうか？そのカギはコストにある。試供品のような物質（アトム）を製造・保管・販売する場合、それぞれにコストがかかる。ではデジタル（ビットで構成される）においてはどうか？ここでビッ

トの世界を支えるインフラについて考えてみよう。

ムーアの法則はご存じだろうか？「コンピュータは1年半から2年くらいで、2倍の処理速度を持つ」という経験則である。数年前のパソコンの処理速度、デジカメのメモ리카ードの容量、インターネット回線のスピードを思い出して欲しい。この数年で劇的に進化しているのだ。

今や1TB（=1,000GB=1,000,000MB）のハードディスクは7,000円程度で購入できる。DVD200枚程度が格納できる容量である。つまり、DVD1枚あたりの価格は30円程度。もはやデータバックアップ用にDVDを買う必要はないのではなかろうか？処理装置、ディスク装置、ネット回線がより速く、より安くなり、それによってサービス提供にかかるコストも急速に低下している。これによって、数十人の無料会員にかかるコストを、一人の有料会員が支えていく、という図式が成り立つのだ。ネットにおいて何らかのビジネスを立ち上げる場合、このフリーミアムモデルについてはぜひ検討すべきと思う。



akio0911
1978年生まれ。制作集団「ハッカーズカフェ」に参加。手作りデバイス「拡張現実メガネ」、同人誌「破滅論」、ARゲーム「電脳スターラリ」、位置情報ゲームイベント「ジオオスタンプラリー」、iPhoneによる自己表現バッグ「モバイルデジタルサイネージバッグ」などの制作に関わっている。最近「Cool Japan TV」の立ち上げと、「メディアファクション」なるものを普及させるべく動いている模様。
ブログ <http://d.hatena.ne.jp/akio0911/>
Twitter <http://twitter.com/akio0911/>
メディアファクション <http://www.media-fashion.net/>

いまそこにある革命

革命ってそんなに大それたものなの？
ちょっとそこ、疑ってみることから始めよう

text: MAT. (Media Surf)

「革命」。重いな。単語として。なんか、過去の事象を見てもその持つ意味は非常に強いと思う。例えば、清教徒革命（1642-1649）、名誉革命（1688）、フランス革命（1789-1794）、ロシア革命（1905）、辛亥革命（1911）……スゴい日常からかけ離れてる感満載！スゴい人たちがスゴい思想のもと、スゴいことをやってのけたのではないかと感じてしまう。恐るべし革命マジック。でもここで一呼吸おいて考えたい。革命は果たして本当に僕らの日常からかけ離れた、僕らがどれだけ背伸びをしても成し遂げることの

できない非日常なのか。否、どの革命も僕らと変わらない、同じような人たちが起こしたものののだ。歴史的評価がその事実を重く、強く、輝きを放つものにしたのではないかと。僕らが生きている日常も、小さな革命の連続なのではないかと。

そこで僕がふと思い出すのは、2005年に水戸芸術館を中心に行なわれた、『X-COLOR／グラフィティ in Japan』展だ。「グラフィティ」。誰もが聞いたことが一度はあると思うが、街中に描かれている（一般的には）落書き（だと思われるもの）である。このエキジビションは水戸の



街全体を会場として、芸術館はもちろんのこと、駅前や店舗のシャッター、ビルなどさまざまなものを対象にグラフィティライターたちが彼らのスタイルで絵を描いた。当時大学生だった僕も水戸まで友人と足を運び、その規模とクオリティに圧倒され言葉を失った記憶がある。僕が知る限り、こ

の規模でグラフィティというものが初めて日本国内において「アート」という文脈で世間にその価値を提示したエキジビションだったと思う。そう、「ストリート」と定義されている「グラフィティ」が「アート」へと昇華した瞬間だったのだ。これも一つの革命だったのだ。確かに世界も変えていなければ、日本史の教科書に載るようなことではないかもしれない。でも、日々あなたが歩けば目にする落書き（だと思われるもの）が「アート」として提示された、ということは「革命」と呼ぶに値する価値があると強く思う。マルセル・デュシャンが便器に『泉』というタイトルをつけ、「これアートなの！（と言ったかはわからないが）」と世界に便器を提示したときとその価値自体は変わらないのではないかと。日本のアートシーンにおける革命が起こったと言えるのではないかと。

落書き（だと思われるもの）や便器など、日常的に目にするものも、その視点を少し変えることによって革命が起きた。僕がここで言いたいのは、そういう普段何気なく通り過ぎているものですら、視点

を少し変えるだけで突然革命を起こすスイッチとなる可能性があるということ。革命は遠い国で偉い人たちが起こせるものではないのだ。

昔、中学時代にぶつとんだ教頭先生がいた。慣例となっていた京都への修学旅行を飛騨高山に変えたり、ヤンキーやたら仲が良かったり、平気で暴力ふるったり。ある時その人が言った。「君たちは生徒と呼ばれているが、おかしいと思う。怒っていいよ。生徒という単語は、いたずらにいきる、と書く。いたずら、というのはやることもなく、ただ無益に、ということ。君たちが未来だ。いたずらに生きてはいないし、決してそう生きてはならない」と。いたずらにただ日々を生きてのでなく、少し視点を変えることで革命は起きるのかもしれない。ほら、いまそこに革命のスイッチは転がっているのだ。

チャリのフロウ

電動アシスト自転車もなかなかいいよ

text: 清田直博 (Media Surf)



「電動自転車だって？ あんなの自転車じゃないよ、邪道だよ！」とおっしゃる自転車好きの方々、僕も前までその1人でしたが最近その考えを改めました。自転車に乗るスタイルはいろいろあって、サイクルジャージにレーサーパンツのビタビタファッションでがっつりロードバイクに乗るのも、普通におしゃれなカジュアルウェアを着てビストに乗るのも、スーツ姿で電動アシスト自転車に乗るのも、それぞれに違った楽しみがあるもの。どれがカッコイイとかカッコ悪いとか、そういうことを言うってこと自体カッコ悪くない？ 同じ自転車なんだからみんなでピースにこうよ、というのがいまの僕の気分です。そんな自由な考え方が、むしろ自転車という乗り物に相応しいよね。やっぱり電動自転車の食わず嫌いのも良くない。

ということで乗ってきました、電動自転

車。はるばる瀬戸内海の小島まで……ってなんで瀬戸内海？説明がちょっと長くなりますが、10年以上前に世界で初めて電動アシスト自転車「PAS」を発売したヤマハが、日本各地の観光地でPASのレンタルサービスをスタートするにあたって、各レンタルエリアの地域情報とPASの楽しさを伝えるウェブサイトを開いたのです。そして、実は我々 Tokyo Design Flow のチームがそのサイトのコンテンツ作りのお手伝いをしているんです。それで、取材のためにやってきたのが瀬戸内海に浮かぶアートの島、香川県の直島。

いつもはフリと速めな小径改造ビストに乗っている私ですが、やっぱり電動アシストのアノ感じは乗ってみたいとわからないですね。ペダルをガシガシ踏んで自転車に乗るのも大きな楽しみだけど、電動アシストの場合は他のことをもっと楽しめる。ペダルを踏む力が少なくて疲れないから心に余裕が出てきて、周りの景色を見ながらゆっくり走り、気になるものを発見したらちょっと自転車を停めてみたり。こまめなストップ＆ゴー的な乗り方ができてすごくいい。坂も楽だし。行ったことがある人はわかると思いますが、直島は小さな島なので歩いてアートを見て回るにはちょっと遠いし、

かといって車に乗ろうとしても島にはレンタカーもタクシーもなく、乗り合いのバスで移動するしかない。おまけにバスの路線から外れたところに隠れた絶景ポイントなどがあって、いざそこへ普通のレンタル自転車で行こうとしても坂が激ハード。ほんとに電動アシスト自転車がかなり使えました。

以上、ちょっと宣伝っぽくなってしまいましたが、来年以降も日本のいろんな観光地でPASに乗れるスポットがあるので、ぜひみなさんにも一度体験してほしいなあと思います。東京にもレンタルスポットがありますよ。



Becle（ビーくる）
ヤマハの電動アシスト自転車「PAS」のレンタルサイトのウェブサイト。東京では丸の内と文京区でレンタル可能。詳しくはサイトをチェックしてみてください！
<http://becle.jp/>

Revolutionary consciousness

価値構造のデザイン

OPEN SOURCE PRODUCT

text: NOSIGNER

極限まで高まった内圧によって平衡が破れ、新しい構造に移行すること。それを革命 (Revolution) と呼ぶなら、普段気づかないだけで革命はどこにでもあります。たとえば自然界では、ミクロには代謝、マクロには進化 (Evolution) という革命が脈々と続けられてきました。逆説的ですが、進化から観察される革命の条件は、「内圧の状態変化」にあります。資本主義において、この一世紀ほど「お金」が「価値」の対価として利用されてきました。価値を定量化する資本主義のわかりやすさは大成功 (!) そのシンプルさから生まれた消費経済は僕らの生活を

豊かにし、平均寿命も大幅に伸びました。デザイナーという職能も例に漏れず、この一世紀のデザインの命題はつねに消費を促進することでした。そして現在、ほぼ全てのデザインは消費経済のために存在しています。しかし「お金」と「価値」との等価性が崩壊し、消費経済が産んだ不合理を強烈に経験している現在の私たちは、いま革命の条件である「内圧の状態変化」の渦中にあります。どうやら私たち人類は、生き残るために価値に対しての考え方を、文字通り「進化」させる必要に迫られているようです。

そもそも、デザインは消費のためにある、という理解は、社会にとって大変不本意なことです。何故ならデザインとは、生き残るために周囲から価値を作り出す人間の本能的な編集能力に対して、最近その一部を「デザイン」と呼び始めただけのものなのですから。僕はいま求められている「進化」に対して、現在のデザイン領域よりもむしろ、デザインの思考に見られる強力な編集能力に期待しています。その能力によって、私たちは新しい価値構造を発見できるかもしれません。ここで思考実験として、プロダクトデザインの流通について考えてみましょう。例えば僕はいまスニーカーを履いていますが、わずか200年ぐらい前の人間はわらじを履いていました。もちろんスニーカーもデザインですが、わらじだって充分にデザインです。さて、これら2つのデザインには重大な違いがあることに気づくでしょうか。それは、スニーカーは買う物であり、わらじは作り方を教わる物だということ。言い換え

れば、スニーカーを流通させるのが「お金」なら、わらじを流通させるのは「知識 (ナリッジ)」だったことです。ここには、プロダクトデザインは「お金」でなく「知識」によって流通できるという重大なヒントが示唆されています。現在NOSIGNERは、知識を介してプロダクトデザインを流通させる、新しい価値構造を持った参加型のWEBサービス、「OPEN SOURCE PRODUCT」を構築しています。このサービスは、参加するクリエイターがプロダクトの作り方 (レシピ) を公開するデータベースとなっています。世界中の人がサステイナブルなデザインのアイデアを交換し、たとえ山奥にいても、周囲の物を利用してプロダクトを自ら製作できるような、自産自消のためのデータベースとなることを目指しています。このプロジェクトでは、優れたアイデアを持ったクリエイターに開かれたプラットフォームを構築し、新しい価値構造を探る小さな革命を試してみたい。そしてい

つか、このサービスから世界を救うアイデアを持ったクリエイターが出てきてくれるなら、これほど嬉しいことはありません。それは、ひょっとしたらあなたかもしれない。公開予定は2010年初旬。「OPEN SOURCE PRODUCT」を一緒に作れる目を楽しみにしています。<http://www.opensourceproduct.org/>

OPEN
SOURCE
PRODUCT

NOSIGNER
「見えない物をつくる職業」という意味をもつNOSIGNER (ノサイナー) として匿名で活動する、領域を持たないデザイナー。空間/プロダクト/アートディレクション等の様々なデザイン分野で世界的な評価を得ている。ロンドンデザインミュージアム収蔵・グッドデザイン賞など、受賞多数 <http://www.nosigner.com/>

新しい回路を繋ぐ

そこから生まれるひらめきも革命

text: 野口尚コ (印刷の余白Lab.)



「デザイナー、ってうちらに關係あるの？」製紙メーカーではつい最近までの感覚だったようだ。そりゃお金を出して紙を買ってくれるのは出版社だったり代理店営業だったりするわけで、直接のお客さんではないデザイナーって人たちにに対して実感がなかったのも無理はない。印刷の余白Lab.という事務所を始めてこうした紙業界、印刷業界の状況にたびたび触れてきたけれど、そもそもこの仕事を始めたのは私がデザイナーとしてあまりにも不器用だったからだと思う。印刷の余白Lab.の仕事は簡単にいうと、印刷に関わる何でも屋……に、図らずもなっている。仕様を組み立てたり現場を手配するディレクションをメインとして、もちろんデザインもやるし、最近は紙と印刷の授業をやったり、編集やライティングにも関わらせていただいている。でもこれらはバラバラなものではなく“ひとつなぎ”の仕事。印刷所の現場と話さずにデザインに取りかかることはできないし、デザイナーの意図を解さずに仕様をかためることはで

きない。どうにも不器用で小心者だから、相手の顔が見えないところで仕事をするのは嫌なのだ。ステージの裏側を支えている人たちを知りたいと動いているうちに、それが仕事になってしまったような気がする。そこで改めて「デザイナーって關係あるの？」という感覚について。「出版社や代理店の営業は指定された紙を発注しているだけで、例えば私のようなデザイナーという人間が使う紙を選んでいるんです。デザイナーってのはカクカクシカジカのような役割で……」。飲み席で5分10分喋ってれば理解し合えそうなのが「なんだか相手がよく見えない」だけでうまくいかないことって結構ある。時代は分業から統合へ。そんなことはもうずいぶん前から言われている。じゃあ具体的にどうしたらいいのだろう。一度別れてしまったカンケイを修復するのは難しい (ご存知のように)。共通言語が足りないならなおさら。そういうときは、どちらの言葉にも耳を傾けられる人間が必要じゃない？

だからこそ、イメージとものづくりの現場をより近づけていくことが、いま一番自分に合ったデザインの在り方だ。印刷屋として、そして一人のデザイナーとして、デザイナーにこそ提案したいことがたくさんある。世界をひっくり返して一から新しいものをつくるのもアリだけど、既存のニューロンに新しい回路をつなぐことで、そこから生まれてくるひらめきもまた革命になるんじゃないだろうか。「文化はつくるものじゃない、醸し出されるものだ」とは恩師の弁。革命は然るべきとき、然るべきところに生まれる。その現場に立ち会えるような、良きシナプスでありたいと願う。

Naoko Noguchi
印刷専門のデザイン・制作事務所「印刷の余白Lab.」代表。技術のある印刷所と協力し、イメージやコストに合った素材・加工を提案する印刷コーディネート業の傍ら、印刷実験としての作品制作、情報発信を行う。<http://yohaku.biz/>

関場・日本文学を革命する男

革命とは何かを変えることなのだ、というのなら彼は本物の革命家だろう

text: 草薨洋平 (東京ピストル)

僕が「革命」と聞いて思い浮かぶのは、レーニンでも日本赤軍でも渡辺美里の「MY REVOLUTION」でもなく、関場という一人の男のことである。関場は2ちゃんねるではある意味で有名人だが、世間一般では無名に等しい。しかしながら革命という言葉は彼以外の人が使ってはいけないのではないかと思ってしまうほどに、僕の中ではすごく大きな存在となっている。僕がはじめて彼のことを知ったのは数年前の終電を逃した池袋の「珈琲専門館・伯爵」の二階席であった。始発までのムダに長い時間を、文学を長年一緒に学んできたTとMとの3人で過ごしている、Tが「今すごいと思うサイトは関場なんだよね……」とポツリとつぶやいた。するとMも反応して「うわー、俺もだよ!」と興奮した面持ちで語り出し、知らないのは僕一人といった状況になった。どうやら2人の説明によれば関場とは、当時まだ始まったばかりのwebの世界において

そこそこ有名な変態のようだ。情報を集めると1.「日本文学の革命」というwebサイトを運営している、2.そのサイトが俊逸で画面上に「開始」の文字だけがあり、クリックすると中に入れる (つまり革命を開始するという意味)、3.ひたすら夏目漱石について評論を書いているのだが、いささか時代錯誤で文学的にもチープである、ということがわかった。「やめておけばいいのに関場が2ちゃんねるに自分のサイトの宣伝をしたり、壮絶な文学の闘いを告白しているうちにいろいろな奴からメタクソに叩かれてね。『才能ゼロ』とか『死ぬ』とか、それはもう本当に罵詈雑言でひどいものだった。そんななかでも関場に擁護する女の子もいてね、関場先生を優しくオフ会に誘ったりするわけよ。ところが関場がなかなか理由を付けて会いに行かない。『その日執筆があって……、行きたいのですが本当に残念』とかね。大作家でもないから別に予定も

ないだろうけど、内気なのか、本当は行きたいのに行かないのが見え見えなのよ。でもそれが可愛くてね」(いま関場の日記を見て、関場のオフ会が2000年の12月8日に実施されそうになっていたのを見つけたので、僕らがその時喋っていたのはその年末だったのだろう)。「歳も僕らのちょっと上。文学のために貧乏をして、アルバイトで食いつなぎ、ネットで真摯にちよっかいを出してる奴と議論したりね。実社会では完全にダメな人なわけですよ。確かにみんながバカにするのもわかるんだ。でも、なんだか笑えないだよね。何か、胸を打つものが関場にはある」TとMが話した意味はよくわかる。当時20代前半の僕らは時代遅れの文学を愛し、文学で身を立てようなどと寝ぼけたことを考えてもいたのだ。だからたとえ的外れでいようと文学のために身を捧げ、奮闘している彼のことを一笑に付すことはできなかった (といいつつ、その日は関場

の話で大いに盛り上がり、大爆笑のまま家路についたのだが……)。
驚くべきことにこの時話したサイト「日本文学の革命」は現在まで続いている。そして彼が書き続けている評論「日本文学の革命」も、なんと10年にわたって展開されており、僕は読むことができる (といて読むほどでもないのだ。泣ける!)。しかしこの関場の粘りと情熱はすさまじい。毎年同じように「もう少しで完成」「『新しい文学』が今にも出来そうだ」「もう出来たようなもの」ひとりで言をつぶやく関場に、僕はどれほどたくさんの勇気と百万の友に似た気持ちをもらったか。思えば僕の文学に対する鬱々とした気持ちを代弁してくれ、自分がなしえなかった文学で身を立てることを愚直にも実行して

くれ、矢面に立って純文学を守る人柱になってくれたのは関場以外にはいなかったのだ。
革命とは何かを変えることなのだ、というのなら彼は本物の革命家だろう。といいながら最近ブログに「反外国主義運動とサザンの思い出」という連載があって、読んだら大爆笑してしまった。いや、天才だよ!
関場先生にはもっと広い世界で活躍してほしいと願う、9年目の今日である。

日本文学の革命
<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~rjtlot/>

Yohei Kusanagi
デザイン、web、エディトリアル全般に関わり、数多くの作品を世に出している株式会社東京ピストルの代表取締役。ふるく付き趣味の科学ムックとして、大人気の『大人の科学マガジン』(学研パブリッシング)に「大人のオタク工作」を好評連載中。

TOKYO PISTOL CO., LTD.
<http://www.tokypistol.com/>

NEETNIKはtumblrを活用した情報サイト。愉快なニートの人たちがどうでもいい情報を毎日更新しているよ。
<http://neetnik.tumblr.com/>



Revolutionary consciousness

自由大学 ―「学び」の革命

忘れられた“自ら求めて学ぶ”楽しさ

text: 和泉里佳 (自由大学)



IID 世田谷ものづくり学校で行われている「スクーリング・パッド」の新しい試みとして今年7月から始まった「自由大学」。名前は大学でも、普通の大学ではありません。教えたい、伝えたいという情熱を持つ人は誰もが教授になれ、新しい価値観をもって自由に企画し講義を行うことができます。そして“自ら求めて学ぶ”人が自由に学べる大学です。“大きく学び、自由に生きる”インスピレーション、知る楽しさと考える面白さを、生活の中に、人生の中に持つてこようという目的から、自由大学のシステムが生まれました。自由大学は学校法人ではなく、自由に学び自由に教え合う組織。自由に生きるための基礎的能力と無限の思考力を創造するために存在します。自由大学では現代の“clever”だけど“wise”でない若者から、時代の変化に流されない知性を身につけたい大人まで、実際に役に立つ教智を追求していきま

す。講義は基本的に週1回の計5回を1クールとして、約1ヶ月で気軽にいろいろなことを学べます。廃校になった学校の校舎で、学び続ける面白さ。開講から半年で既に450人の卒業生が自由に学んできました。自分の意志とはあまり関係なく、知識だけが一方通行で与えられてきた、これまでの日本の教育環境の中では、「学び」が「生きる」ということになかなか結びつきませんでした。人は新しいことを学びたいという欲求を抱えて生きています。いくつ年を重ねてもその想いは変わらないはずです。常に新しいことを学び、考える。そうして得たことを生活や人生に取り入れてほしいと思っています。そして本来、学びとはそういうものだったはずなのです。自由大学は「学びたい」という声に答えることで、すべての人が成長できる場として、これからさらに大きく発展していきます。「学び」に革命を。

自由大学
＜1月の開講予定講座＞

【スタイリコン】～すきをしごとにする！～

好きなことを仕事にしている人のストーリーに興味はありませんか？

教授：坂巻善徳 a.k.a sense、
ALEXANDER LEE CHANG、
内野洋平、VERBAL
キュレーター：松井明洋 (MAT.)、
石渡道和 (MIT.)

【日程】19:30～21:30
1/14 (木)、1/18 (月)、1/22 (金)、1/25 (月)、1/29 (金) (全5回)

自分の本をつくる方法

1月は、自分と向き合うのに、もってこいの月だ。つくりたい本のことを考えるのは、「自分は何者なのかを答える」ということ。新年の抱負もいいけど、具体的に動こう、いっしょに。

教授：深井次郎
キュレーター：芹沢菜澄

【日程】毎週土曜日 13:00～15:00
1/16、1/23、1/30、2/6、2/13 (全5回)

100%オーガニックフードを自分で育てる

A4サイズのスペースがあれば、1年間サラダは食べていける

教授：John Moore
キュレーター：林篤志

【日程】
＜週末コース＞土曜日 10:30～12:30
1/16、1/23、1/30、2/6、2/13 (全5回)
＜平日コース＞火曜日 19:30～21:30
1/12、1/19、1/26、2/2、2/6 (全5回)

(注)最終日2/6のみ土曜日14:00～16:00の開講となります。

セカンドママとして働く

what is a "セカンド ママ"?
教授：Peter Anshin、John Moore
キュレーター：芹沢菜澄

【日程】毎週木曜日 19:30～21:30
1/28、2/4、2/11、2/18、2/25 (全5回)

20年履ける靴に育てる

おろしたての靴は赤ん坊。履き続けることで靴は育っていく。10年履いてようやく"靴"になる。

教授：明石優
キュレーター：芹沢菜澄

【日程】毎週水曜日 19:30～21:30
1/13、1/20、1/27、2/3、2/10 (全5回)

Love & Communication
～セクシャルヘルス・コミュニケーション学

セクシャルヘルスケアとコミュニケーションスキルを身につけ、愛情に満ちた豊かな人生を送る！

教授：OLIVIA
キュレーター：山本ベロ
(LOVE&COMMUNICATION)

【日程】毎週火曜日 19:30～21:30
1/12、1/19、1/26、2/2、2/9 ＊女性限定

Creative Leadership

世界をつくるのはあなただ！リーダーシップに必要なスキルと自信
The World As You Make It - Leadership Focus on Skills & Confidence
「あなたの成功への道をつくるのはあなただけしかいない」
"You're the only one who's getting in the way of your success."

教授：John Moore

キュレーター：林篤志

【日程】毎週月曜日 19:30～21:30
1/11、1/18、1/25、2/1、2/8 (全5回)

＜2月の開講予定講座＞

未来の仕事

それは、会社よりもボクたちにぐっと近い

なりたい自分になる～顔編～

「なりたい自分」は獲得できる。メイクとスキンケアでまずは顔から、なりたい自分になる。

靴磨き職人になる

"靴を磨く" シンプルな事とことん極める職業、靴磨き職人

講義の詳細やお申し込みはこちらから
<http://www.freedom-univ.com/>



絵：長場 雄
Design Tshirts store graniphのグラフィック制作を中心に、アーティストPV、テレビ、雑誌等の媒体でイラスト/デザインを制作。またオリジナルキャラクター「かえる 先生」の生みの親。
<http://kaerusensei.com>

脚本：MAGNAROID/マグナロイド
音楽活動 (OROTI/M.A.G.M.A) では作曲、ステージ演出、MCを担当。ソロ活動ではナレーターやイベント、結婚式の司会も務める。'07年より、アーティスト長場雄の4コマ漫画作品の脚本も手がけるなど、その活動は幅広い。
<http://www.myspace.com/orotidub>

Answers Lee's Choice

大貧民

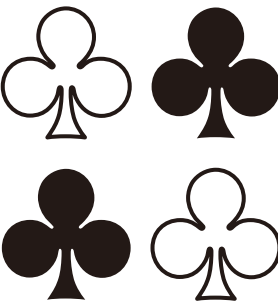
text: Alexander Lee Chang

トランプの大貧民 (土地によっては大富豪) というゲームを知ってますか？細かいルールはさておき、小さい数のカードの上とその数よりも大きな数のカードのせていく。最初に手持ちカードがなくなった人が大富豪、2位が富豪、3位は平民、と階級が分かれていくというゲーム。ルールの一つに、同じカードを4枚出すと「革命」があり、小さいカードが一番強くなり、大きな数字が弱くなるというすごいルールがある。僕はこのゲームはとてもしっくり思うんです。ゲームの名前、シンプルなルール、ステキなローカルルール、とよく考えられている。そんな好きなゲームをWikiで調べところ、更にステキなローカルルールも存在していた！細かいことは「トランプ、大富豪 (もしくは大貧民)」でGoogってください。

数が多ければ強い、それよりも多ければさらに強い、さらに多く、多く。人数を稼いで強くなる。人数が多ければ強い。んーまあ当たり前のことだが、あるとき同じ意志の仲間が同じ時期に現れ、大きなモーションを起こしたときに革命が起きる。革命が起きると強い意志を持っている少数民族がどんどん強くなり、更に中身の濃い少数の精鋭隊が、そして最後には1番意志の強い人物「リーダー」が現れ統治する。なんかそんなトランプゲームだと僕は思っている。最初に必要なのは一人一人が毎日の生活を不思議に感じ、こうだったら!? って思う世界に自分は住みたい！住んでいる。そこで生きていたい！そこで自分は住んでいる、と思う。決めてしまうことから始めることが大事だと思う。

「革命家に従うのでもなく、敬うのでもなく。自分を革命家と思わない限り、戦いに自分への負い目が出てくる。本質は変わらない。黙ってても時代は変わるから参加しないのは別に罪じゃない。そのかわり後悔を残すなよ。時代を変えたって？それは結構なことだ。そのかわり後悔を残すなよ。おまえの女や子や孫に、お前自身に。俺に最後まで付いてくるのは俺だけだし、お前を最後まで見捨てないのもきっとお前だけだ。それぞれがそれぞれの生活を見つめる」(Tha Blue Herb / 時代は変わる part2,3 から引用)
僕の好きな歌詞の一節でもこういう事を言っている。
今の世の中に自分がどういうふうになんかに生きていくかということではなくて、自分や家族、恋人が幸せになるために、世界がどう変わってほしいか？どうしたら変わるか？と僕は思う。だって最後に世界は世界を守れないし、僕たちも守ってくれない。だけど、世界は僕たちを住まわせてくれているし、僕たちは世界にしか住むことができない。そしたらこうするのはどうかな？自分たちのことは自分たちで守る。

住まわせてくれている世界も自分たちで守る。そうすれば、僕たちは幸せにこの世界に住むことができるんじゃないかと、僕は思う。ありがとう！



アレクサンダー・リー・チャン
1975年サンフランシスコ生まれ。アパレルデザイナー／プロスケーター／アーティスト。幼少期のカリフォルニアにてスケボーと出会う。10代の頃からプロスケーターとして活躍。96年より7年の間、アパレルブランドのディレクターを経て、03年独立し [Chang Co., Ltd.]を設立。04年 S/Sよりスタートした [AlexanderLeeChang]ではアーティストとしても活動する彼の DIY精神で凝ったディテールと構築的なフォルムのプロダクトを生み出している。立体作品、コンピューターグラフィックなどが得意。

Revolutionary consciousness

近代日本の「革命」、ルサンチマンの輪廻

戦後から現代まで勝手に総括

text: 清田直博 (Media Surf)

革命とは何か？

革命とは「上」と「下」がひっくり返ることだと私は理解している。上と下があるということはその間にヒエラルキーが存在する。西洋では、ある時は王様と民衆の逆転で王政が倒れ民主制が出現したり、またある時は資本家と労働者の逆転により社会主義が生まれたりした。

近代日本の最初の革命は明治維新。徳川幕府と幕藩体制の枠からはみ出た浪士達の間で逆転が起こり、天皇を頂点とした明治政府ができた。その後2度の世界大戦を経て1945年に敗戦、GHQにより、天皇は象徴天皇として政治の舞台から引きずり降ろされ、天皇万歳を叫んでいた民衆の心に深い傷と喪失感を残した。

では、革命の主体となったのはどのような人間だったか？革命は独りでは起こせない。革命とは心と同じ傷を負ったヒエラルキー下位の人々の連帯による価値観の転覆劇であり、さまざまなスローガンやイデオロギーで装飾されていたとしても、その本質は、虐げられた人々によるルサンチマンの爆発なのではないかと私は思う。



60年代後半の「政治の季節」

戦後、GHQによる急激な民主化に反発した共産主義者達による運動が始まる。当時の共産党には東大の学生であった読売グループの渡邊恒雄や日本テレビの氏家齊一郎、西武百貨店の堤清二な



どもいた。1960年には日米安保条約の継続に反対する学生を中心とした「60年安保闘争」が勃発、のちに68年の学生運動に参加した若者達に影響を与えた大江健三郎や寺山修司などの姿もあった。彼らを突き動かした心の奥底には「敗戦」があったのではないかと？その後1968年から70年にかけて、日大の学生デモを皮切りに全国の大学で学生運動、いわゆる「全共闘運動」が起こる。ベトナム反戦運動や新左翼と呼ばれる共産主義者達による70年安保闘争などが重なり合い、日本中が革命という幻想に包まれていた。結果的に1970年には日米安保条約が更新され、「内ゲバ」と呼ばれる党派間闘争や「総括」と呼ばれた運動家内での粛正が起き、1972年のあさま山荘事件で収束したと言われる。運動の渦中にあった団塊世代の若者たちは一連の政治運動に敗北することとなったが、これが80年代以降、形を変えた「革命」として成就することになる。

「政治」での敗北と「経済」での勝利

政治運動で敗北しルサンチマンを抱えることになった当時の若者達が企業戦士へと転向し実現させた革命が、大量消費社会の実現とバブル景気ではなかった

か。80年代以降、もはや政治ではなく経済が国際政治を左右する時代になった。1985年以降に進んだ円高と日米貿易摩擦、そして1989年の三菱地所によるニューヨークのロックフェラー・センタービルの購入を頂点として、戦後の日本は敗戦のルサンチマンを一気に解消させた。また80年代には一億総中流化（ある意味、社会主義化）が実現し、一般庶民が豊かな消費生活を享受した。1983年に糸井重里が西武百貨店のために作った「おいしい生活」というコピーが80年代の消費文化を象徴したと言われるが、1968年当時、学生運動に身を投じていた糸井重里と戦後の左翼運動を経験した作家兼実業家である西武の堤清二の組み合わせに、左翼革命の成就を見る批評家もいる。彼らが実現させた革命は思想やイデオロギーやアカデミックな教養に基づいた従来の階級を崩壊させたのだ。人々は政治に参加する「市民」ではなく、経済活動の「消費者」として横並びになった社会でいかに消費を楽しむか、他人と差異化するかが関心事となった。そんな空気の中で生まれた新しい価値観を持った若者は「新人類」と呼ばれ、消費スタイルの「かっこよさ」を軸としたヒエラルキーが発生。「ネアカ」と「ネクラ」が流行語となり、その時代にルサンチマンを蓄積していったのがネクラな「おたく」と蔑まれていた若者達であった。

「おたく」と「IT革命」そして「六本木ヒルズ」

1995年「Windows95」登場が、それまでおたく的なものだったパソコンを一気に一般消費者に普及させ、インターネットの普及とIT革命への下地ができた。秋葉原電気街がアニメとパソコンの店から成り立っているように、インターネット通信やゲームでパソコンに慣れ親しんでいたおたくとITの親和性は高く、徐々におたくの地位が向上し、2001年のインターネット博覧会（インパク）を頂点とした「IT革命」と第1次ITバブルにつながる。

その後バブルははじけたが、もう一つのおたく的なもの「アニメ」が2000年代になって世界的に評価されるようになる。日本のアニメ文化を日本画の系譜に連ね、西洋のアート市場で成功を取めた現代美術家の村上隆の登場だ。「おたく」がポジティブな「オタク」へと変わり、2003年には六本木ヒルズのイメージキャラクターを制作することになる。六本木ヒルズにはIT長者や外資系金融企業が入居し、所得格差が広がる社会を背景にして「勝ち組」の象徴となったが、その裏で

は不正規雇用で経済的に不安定な生活を余儀なくされるフリーターや、政府により名指して「ニート」と批判された働かない若者が大量に生まれた。しかし、今までの日本の革命の流れを見ると、もしかしたら近い未来、彼らによる何らかの革命が起きるかもしれないし、私もそれを望んでいる。次に起こる革命の主体となるのは、きっと彼らのような若者たちに違いない。私もそのルサンチマンの大爆発に備えて、社会への怒りをいま静かに溜め込んでいるのだ。



マイケルを悲しませないために

text: tomoji. (tomojinal inc.)

21世紀に入り、大小問わず様々な分野で革命が起こった。音楽業界ではCDからMP3が主流となって、音楽がデータとしてやりとりされるようになり、我々の音楽に向き合う姿勢を劇的に変えた。AppleのSteve Jobs氏はその点を予め理解し、音楽の1番はライブでiTunesは2番目だと言っている。とはいえ、やはりデータ通信によって秒単位で新しく生まれる音楽も文化として根づいてはいるが、血の通った、生臭い何かを音楽から感じる機会が減りつつあり、寄せ集めのコンピレーションばかりを欲する、ただただ消費する姿勢へと繋がってきている気がしてならない。

ファッションではファストファッションが台頭し、文化がコストに駆逐されているという点も見逃してはならない。このようなファッションの現状をコムデギャルソンの川久保玲氏は「作ることに対しての価値が重きを置かれていない。ビジネス優先

が閉鎖感を生む」と述べている。常に第一線でファッションに革命を起こし続けてきた彼女の言葉には、クリエイティブ事業に従事している誰しもが反響すべき言葉であろう。しかし皮肉なことに、同じ革命家であるココ・シャネルは、こう語る。

「創造できる人間は、ごくわずかです。できない人間は数えきれません。だから後者のほうが強いのです」

時代を超えて創造者たちは同じ悩みを抱き、想像もつかない孤独に耐えてきたのであろう。

資本主義の革命とは文明の進歩と繋がっていたはずであるが、今やその根本となる価値基盤が歪み、ぐらつき始め、多くの分野で耐震偽装が目立ち始めてきた。革命によって新たな価値が生まれる反面、それによって様々な弊害が生まれるのも事実である。その弊害を乗り越えた時こそ真の血（知）の通った革

命が成立するのかもしれない。

そして我々はジャイアンを抱く覇権主義の実態に嫌気が差し、実態のない数字が作り出す金ではなく、本質的なモノに目を向け始めてきた。思想もなく、流行としてエコやグリーン、サステナブルだと叫ぶ風潮や、社会全体を覆い尽くす偽善的態度に若者は気持ち悪さを隠しきれないでいる。科学至上主義、自由経済によって、我々は太古から続く宇宙の調和を乱しに乱している。この記事を書いている私もその一人であろう、あなたもきっとそうだろう。人間は地球の一部であり、生かされている存在であるという当たり前の事実を目を向けず、地球の資源を削り、傷つけ、汚している。きっとマイケルも悲しんでいるはずだ。

我々は徐々にではあるが、論理と数字が支配するマインド型社会からの脱却を試みていかなければならない。それはそんなに難しいことではない気がする。

例えば、30000mの高層マンションから望む景色と自分の手で作り上げた高さ7mのツリーハウスから望む景色のどちらが素晴らしいか、それは一概には言えない。すべては頭で決めるのではなく、心で感じとるものなのである。感じればそれで良い、答えを求め過ぎないことが生きる喜びに繋がるのだ。マインドではなく、ハートでどう感じとるかによって幸せを定義するなら、近代社会の成功繁栄思想の価値を個人レベルで転換するのは容易に可能なのである。昨日見た景色も次の日には全く違った景色に見えることもあるだろう。本当に大切なモノはそばにあるものなのである。農耕民族である我々日本人は、自然の中に美を、そして神を見出してきた。それはわかったからではなく、感じたからなのである。



僕の中で革命と言えばマルコム X。マイケルと見せかけてマルコムX

tomoji.
悠久の時を越え、引きこもりから脱しつつある「平成の怪物」と自ら言う、リハビリなう、な男。[N.G.R.] PR担当(非公式)。

Revolutionary consciousness

ゲバスタイル

文字の入ったヘルメット、あの意味はなに？

text: ゲバルト坊や (革命的共感主義者同盟)

「ゲバ」とはドイツ語で「暴力」や「闘争」を意味する「ゲバルト」の略。60年代に学生運動の闘士たちが、警察や権力に対する実力闘争 (=ゲバルト) する時に身を包んだ闘いのための装い、それがゲバスタイルだ。頭には工事用のヘルメット、口には防塵や顔を隠すためのマスクやタオル、手にゲバ棒を持つ。その中でも特にヘルメットは重要で、セクト (党派) 毎にさまざまなロゴや色で分かれており、70年代に入るとセクトの内部分裂が増えて警察でも全てを確認できないほどの種類があったようだ。ここでは1968年から70年当時に使用されていたヘルメットを紹介す

る。ぜひ自分でヘルメットを作るときの参考にしてほしい。

- 全共闘 (全学共闘会議) 赤地に白、白地に黒で「全共闘」の文字。全国の大学に全共闘の組織があった。1968年の東大安田講堂事件で立て籠っていたのが東大全共闘の学生たちであった。
- アナキスト、ノンセクト・ラディカル (略称NR) ログのない黒ヘル。大組織に所属しないアナーキストやゲリラグループが使用。70年安保闘争以後、大衆運動の 衰退と共に彼らは地下に潜行し、「反日武装戦線」

のような爆弾テロ路線をとる。

- フロント (統一社会主義同盟・社会主義学生戦線) グリーンのヘルメットに白で「フロント」のロゴ。(元々赤ヘルだったがCI戦略で緑ヘルに変更) 詩人・作家の「いいだもも」に指導されたセクト。
- 第四インター (第四インターナショナル日本支部・国際共産主義学生同盟) 赤ヘルに黒で鎌とハンマーのシンボル。ロシア革命の正当な継承者という意味。スターリンに指導された第三インターナショナル (コミンテルン) に対し、トロツキー支持者により結成された第四インターナショナルの日本支部を名乗る。

- 安保共闘 60年代末には銀色ヘルに赤字で「安保共闘」のロゴ。活動地域を「京浜安保共闘」「中京安保共闘」のように冠した。「日本共産党の革命的分派」であることを主張。他の党派が「反帝・反スタ」(反帝国



- 主義・反スターリン主義) を掲げ日本共産党 (本部は代々木) を批判した (反代々木系) のに対し、共産党の「民族自立論」などを継承したため対立。後に連合赤軍 (赤軍派+京浜安保共闘) による「総括」(リンチ殺人) の一因ともなった。

- 革マル派 (革共同・マル学同・革命的マルクス主義派) 白ヘルに赤テープ。正面のZはZENGA-KUREN (全学連) の頭文字。字体にはセリフが多い が、サンセリフのものもある。側面に「革マル」のロゴ。カリスマ指導者の黒田寛一は2007年に死去。

- 中核派 (革命的共産主義者同盟・マルクス主義学生同盟・全国委員会派) シンプルな白ヘルに「中核」のロゴ。革命的共産主義者同盟 (革共同) の多数派。ここから革マル派が分派した。両派は分裂後に激烈な党派闘争 (いわゆる内ゲバ) を展開。多数の死傷者を出した。

- 社学同 (共産主義者同盟・社会主義学生同盟) 赤ヘルに白で「社学同」のロゴ。「学生ブント」と呼ばれた大セクト。大組織ゆえに多くの分派を生んだ。 歌手・加藤登紀子の亡夫である藤本敏夫は学生時代に社学同から反帝全学連の委員長に選ばれた。

- 赤軍派 (共産主義者同盟・赤軍派) 赤ヘルに白で「赤軍」のロゴ。共産同の分派の一つ。「よど号ハイジャック事件」「テルアビブ空港乱射事件」などで 国際テロリストとして有名になる。彼らと何らかの関係があるとみなされ、インターポール (国際刑事警察機構) に拘束されたり海外で入国拒否された知識人たちも少なからずいた。

- 反帝学評 (革労協・社青同解放派・全国反帝学生評議会連合) スカイブルーのヘルメットに白で「反帝学評」のロゴ。日本社会党の青年組織「社青同」の革命的分派を名乗る。労働者組織は「革労協」を名乗り、軍事路線をとる。

- ML 派 (日本マルクス・レーニン主義者同盟) 赤ヘルに白のストライプ。側面に白字で「ML」(マルクスとレーニンの頭文字) のロゴ。しかし思想は毛沢東主義である。

*参考ウェブサイト
平尾ゼミ
<http://homepage3.nifty.com/hiraosemi/>
ボリューム(E)
<http://nagato-nagato-nagato.cocolog-nifty.com/>



革命は失敗して当然

text: 伊藤洋志 (ナリワイ)

日本には革命の経験がないらしいです。そういうわけか、どうもある種の日本人には革命コンプレックスというのがあるのではないかと思います。革命の経験がない日本は国として一人前ではない、と。そんな日本にも1960年末ごろに学生運動という「革命」を目指す運動が流行ったそうです。学生の人たちが

が「自分たちが理想とする社会を実現する」と意気込んだ、というにはあまりにも派手すぎる闘争があったらしいのですが、さらにびっくりするのがそうして暴れた人たちがその後、あれだけ糾弾した大学で教授をやっていたり、それなりの会社に勤めて偉い立場に立っていたりすることです。たしか「革命」というの

は、「人民」の平等な社会、つまり社会主義国家の実現だったと思うのですが、結局暴れ方がうまかった人がなんだかんだで、特等席についているという、なんとも不思議な事態があるのはいったいどういうことなのでしょう。

僕は、あの革命には致命的な欠陥があると思っています。それは「目立ちたい」というヒロイズムが根底にあるのではない。目立ちたいというのは、文字通り誰が立つかのレースです。すべての人が目立つことはできません。平等を目指す運動にそれはにつかわしくないはず。 「闘士」、「アジェーション」(ここに、結集されたあー、学生、労働者、諸君! などではじまる勢いはあるが内容のない演説)」という当時の言葉からも、目立ちたいという欲求が見え隠れする気がします。奥ゆかしさが身上の日本人に目立ちたい欲求が開放されたからこそ、多少の思想の違いで内ゲバという恐ろしい内部闘争をやることになったのではないのでしょうか。戦おうとしているはずの相手よりもむしろちょっと意見の違う仲間を攻撃するとは! その内ゲバ革命運動組織の代表的な事件、あさま山荘事件で、革命運動は収束していくわけですが、参加者たちはその後高度経済成長期の勢いに乗った安定成長期の中心人物になるわけです。ついでにバブル期においても。 目立ちたい欲求はつまり、自分を認めてほしいという人間ならば誰でも持つ欲

求でもあるわけですが、それを克服できないばかりに妙な主義主張で人間を虐殺したり、名誉、地位に固執したり、頑張りすぎて社会を傾けさせるのです。結局、諸悪の根源はそんなところにあるような気がします。そう! 革命というならば、そこを絶たねばなりません。さて、40年前の革命運動はどうなったかという、日本の社会が豊かになるにつれて、棚上げにされて、つまりどうでもよくなり残存したままです。内ゲバは暴力を伴わなくなったとはいえ、様々な業界、会社やNPO 活動でも見られるし、相変わらず存在します。

そもそも、なんとか主義という強いコンセプト自体が、目立ちたい欲求の表れであり、それを葬り去らねばなりません。し

いがじんわりしみこむ、そういう革命がいま必要であると思います。それ、すなわちサイレントレヴォリューション。それには、俳句やお花、茶道など何気ないそこにあるものに美を見出すような美意識の転換や昼寝という資源を使わない最



高の娯楽がうってつけと思う次第です。なにしろ人間は、ほんとくとピラミッドとか高層ビルとかついつい大きいものをつくってしまう癖があるわけですから、それを踏まえて何かを生産せずに「豊かさ」を実現することにあくまでほどほどに力を注ぐ。新エネルギーやエコプロダクトやらなんやらでにぎやかな昨今ですが、どうせ新しくエネルギー作ったところでまたゴミをつくってしまうのに違いのないのです。きりがいいんだから、もうそういうことはやめたほうがよい。以上です、委員長!

Hiroshi Ito
健康的な仕事をつくる集団ナリワイ、現在ナリワイギャラリーキュレーターとナリワイズを絶賛募集中。京都の茶の湯ゆかりの大徳寺近くに町家を借りてゲストハウスをつくる企画も進行中、泊りたい人はご一報ください。



かし、なんとか主義をやめようということ強く意識しすぎると、「なんとか主義を葬り去る主義」ということになってしまいます。禅問答ではないのですが、主義の罠にはまらない、なんだからよくわからな

NEW WORK, NEW LIFE. REVOLUTION

Cooperated by 東京仕事百貨

TOKYO DESIGN FLOWと東京仕事百貨が、読者のみなさんによりよく生きることと働くことが一致するような、意義ある仕事への入口をご紹介します。

東京仕事百貨

東京仕事百貨は「生き方を探す人の仕事探し」をサポートするプロジェクト。そこにある生き方・働き方を見つめて、自分の言葉にしています。給与やネームバリューで選ぶのではない、オルタナティブな仕事ととの出会いを提案しています。
<http://shigoto100.com/>

なぜ求人情報はつまらないのか

text: 中村健太(東京仕事百貨)

リクルートが1960年に創業されると、求人情報は広く流通することになった。どんな仕事が集まされているかわかるようになって、とても便利になったと思う。しかしサービスがインターネットに移行するなどの変化はあったけれど、ここ50年、大きく変わらなかったであろうことがある。それは「求人情報=退屈でつまらないもの」ということ。検索結果にうんざりしなかったことはないし、日常的に見たくなるようなものでもない。仕方なく見るものでしかない。何なのだろう、この憂鬱な気分は。

でも仕事というのは、人生のもっとも多くの時間を費やすもの。仕事がすべてではないかもしれないけれど、平日は息を止めるようにやり過ごして、週末に深呼吸するような生き方ではもったいない。

僕が就職活動をしたのは今から7年前。当時も就職氷河期と言われていた。けれどもいまひとつ危機感というものがない。なんというか自分の将来がイメージできない。リクナビなどに登録してみたものの、就職したいと思える会社がまるでない。適正診断みたいなものを受けても、その結果が腹に落ちない。合同説明



会は合同結婚式みたいだから絶対に行きたくなかったし、50社ヘントリーしたぜ!という友人にも違和感があった。

一方で漠然とした不安はあったから動いてみることにした。そんな時に役に立ったのがOB訪問。これは就職活動のときに先輩を訪問して相談に乗ってもらいアドバイスを受けるもの。僕は大学の垣根を越えて沢山の先輩に会った。それぞれに違う考え方、働き方だったけれど、先輩たちの個人的な意見は信頼できた。何故かって?それは個人的な意見ではあるけれど、あくまでも僕のことを考えてくれた純粋なアドバイスだと思ったから。OB訪問のおかげで、僕の就職活動は意外

とあっさり終わってしまった。

就職情報サービス全体に対して感じた不信感はい体何だったのだろうか。今だからこそ思うのは、企業の一方的な情報であることと、不人気企業ほど採用にお金をかけなければいけないから露出が増えることが原因かもしれない。つまり就職情報がオススメしているものと、僕らが求めているものがイコールではないということ。先輩たちのアドバイスのように仕事を探している僕らに向けた情報というよりは、完全に企業に寄ったものだ。仮に僕らの求めている情報があったとしても、情報のミスマッチというものが構造的に成立しうるので、僕らに不信感が芽生えてしまうという現象は間違いなく起きてしまう。まるで「あなたのためだから」と言っていて、残業を強制したり、ケーキを横取りするあのCMと同じようなものだ。言葉と裏腹な態度(もしくはそのように僕らが受け取ってしまう現象)が、就職活動を疑心暗鬼なものにしてしまった。

不信前提で就職活動をしてしまうことはまずいと思う。就職情報に違和感がある、けれども「もし無職になってしまったらどうしよう?」という不安が勝り、とりえず就職してしまうということが起きるだろう。まず生活することは大切だと思うけれども、不信前提で就職したとしても、それは覚悟のない就職になってしまう。仕事をしていて辛いことがあったときに、腹をくって就職しているのであれば、ある程度は我慢できるかもしれない。あの先輩のアドバイスもあったわけだし、どんな仕事も楽じゃない、ここは頑張ってみよう!というように。けれども覚悟がなければ、簡単に転職してしまうかもしれない。

仕事というのは、ある程度やってみないとわからないこともある。社会人経験がない人にとっては、憧れや想像でしか仕事を選ぶことはできない。でも憧れだけで仕事をするのもできない。どんな仕事だって大変なことはある。仕事に付き物の大変な部分を理解して、それでも自分はこの仕事がやりたい!と思う仕事に出会えば、それは素晴らしいことだと思う。でも本気で仕事に打ち込むことができれば、いつまでたっても仕事に向き合うことができない。毎回辞めることが前提で転職してしまうかもしれない。

さて、結果として不信前提で就職してしまい、転職を繰り返す人が増えてしまうことに嬉々としている人たちがいる。企業? そんなまさか。企業だってすぐに転職してもらっては困る。3年で3割が辞めるっていうけれど、3年で辞めてしまったら企業としてはマイナスだろう。それなら誰か?それは人材サービス業界だ。彼らは人が就職・転職すればするほど、つまり流動化するほど儲かる仕組みになっている。転職業界の場合、一人の転職を斡旋するだけで年収の3割が手数料と



して人材サービス業界に入ってくるらしい。日本人の平均年収は450万円ほどらしいから、150万円近いお金が動くことになる。だから人材サービス業界は、転職を繰り返す人を大量生産すればするほど、全体として儲かることになる。

もしかしたらその人に合った仕事を紹介するよりも、いかに就職しやすいか、つまりお金になりやすいかを考えることになるかもしれない。自分の人生に親身になってアドバイスしてくれる人材サービス業者だが、本当のところ一体何を考えているか。「そんな絶対採用されない仕事なんて考えないで、こっちのすぐ決まる仕事を選んでくれないかな」「高望みばかりして。時間の無駄だなあ」もちろん、真面目に相談に乗ってくれる人がほとんどだろうけど、こういうことが起きてしまう可能性が構造的にある。だって、その人がどんな仕事をしたいか一緒に考えるよりも、効率的に手数料を稼ぐことができるわけだから。「キャリアアップ」という言葉だって曲者だ。キャリアに上も下もないし、そうやって積み上げたキャリアは一体誰のためのものだろう?本当に幸せになれるのだろうか?でもキャリアアップを志向する人が増えると人材サービス業界は潤う。もう僕らは一人ひとり=商品なわけです。

たくさんの求人情報が溢れて便利になったかもしれないけれど、結局誰も幸せになっていないように感じる。もう就職情報サービスって、仕方なくエントリーするための手段でしかないのでは。むしろ就職に対する不信感しか生んでいないのでは。

それではどうすればいいか? いざずらに懐古主義を唱えて昔に戻ることもできない。時代は前に進んでいるのだから。政府に頼ることもできない。もちろん既存の人材サービス業に期待することもできない。でも僕らは情報を発信することが容易にできるようになった新しい時代にいる。情報を流通させるコストは下がり、動画を中継したり、つぶやけばあっという間に広がっていく。この新しい武器を手にして、デモをするのではなく自分たちの決意を形にしていけることができる。就職活動の時に世話になった先輩たちから受けたアドバイスのように、自分の言葉を伝えていくことはできると思う。

※写真は先日行われたMAGNETICSトークショウの様子



Kenta Nakamura

株式会社シゴトヒト 代表取締役。1979年東京生まれ。みんなが(そして自分も)楽しんでいる状況・場づくりがたく、建築学科へ進学。ただデザインするよりもプロジェクトをつくりたいという思いがあり、不動産会社に勤務。仕事は楽しかったが、自分のやりたいことを本気で考えるようになる。ふと足繁く通うバーになぜ行くのか考えてみた。内装もいい、お酒や食事美味しい、でも自分はバーテンダーの彼に会いに行っていたんだ!ということに気づく。素晴らしいプロジェクトや場所に、「人」は欠かせないと思い、東京仕事百貨をスタート。

twitter <http://twitter.com/shigoto100k>
blog <http://ameblo.jp/034510100/>

島宿ノススメ

島宿真里

小豆島は牛の形をした島。そんな牛の後ろ足の付け根、しょうゆ蔵が並ぶ場所に「島宿真里」がある。よく知られた宿で調理と接客のスタッフをそれぞれ募集中だ。四国一の都市である高松から高速艇で45分ほど。気がついた小豆島の草壁港に到着。潮のよう穏やかな海に綺麗な砂浜。見上げれば瀬戸内一の高さ、寒霞溪の紅葉が美しい。香ばしいしょうゆの香りもする。こんな自然も産業も豊かな島にあるたった七室の宿、それが島宿真里さん。旅行をするというのは非日常を求めているのかもしれない。でもここで感じたのは理想的な日常というものだった。家族があり、島の人々がいて、仕事がある。理想的な日常とは、そこで働いている人の日常ということに気がついた。



【業務内容】
調理、接客
【募集職種】
調理師見習い、接客担当※いずれも正社員(試用期間あり)
【給与】
社内規定に基づく
【勤務地】
香川県小豆島醤油蔵通り
【勤務時間】
応相談
【応募資格】
調理師見習いは18~25歳位、接客担当は19~30歳位。高卒以上で普通自動車免許を取得している方。料理を考えたったり、人と接するのが好きな方であれば、調理・接客など未経験でも大丈夫です。
【選考基準】
一緒に働きたいと思える方。
【その他】
海の横に社員寮あり。女性が多い職場で島外出身のスタッフも多いです。

その他、詳細は東京仕事百貨 (<http://shigoto100.com/>) をご確認ください。

一冊の力を信じて!

株式会社ミシマ社

ミシマ社は原点回帰を目指す出版社。一冊の本の力を信じて、体温の伝わる本作りをしている。自由が丘にある一軒家で家族のように働く7人のスタッフは、本当に素敵なチームでした。今、営業事務を募集しています。詳細は東京仕事百貨に掲載予定です。



ミシマ社
MISHIMASHA

【業務内容】
伝票管理、各書店様への納品書、請求書作成及び発送。本の出荷など、社内で営業業務を支えていただく仕事全般。
【募集職種】
アルバイト(長期的には違う形も考えております)
【勤務地】
東京都目黒区自由が丘
【勤務時間】
平日週5日(10時~18時)を予定。
【選考基準】
①出版事務もしくは出版経理の経験がある方優先。ただし、その限りではありません。
②長期で働いていただける方。
*できるだけ、早い時期から働いていただける方がありがたいです。

その他、詳細は東京仕事百貨 (<http://shigoto100.com/>) をご確認ください。

TOKYO DESIGN FLOW SUPPORTER'S LIST

下記店舗にてTOKYO DESIGN FLOW paperを入手できます。

- 表参道・原宿エリア

HIDEAWAY/
SMOKE BAR&GRILL/
Sunshine Studio/
HIDEAWAY/Café Studio/
MiLK café/LoiteR/
Ucess the lounge/
WIRED CAFE 360°/
Burton/GRAVIS/55DSL
TOKYO/DEPT/K-SWISS/
inhabitant/UNDFTD/
STUSSY Harajuku
Chapt/ The North Face /
EASTPAK/Lafuma/
TOKYO HIPSTERS
CLUB/MIZUNO/
QUIKSILVER Flagship
Store 原宿/element/
- kinetics/atmos/X-LARGE/
VA/ BLISTER/Rocker &
Hooker/
GALLERY SOCIAL/
FREAKS STORE /
CARNIVAL/FIG BIKE/
W-BASE

■外苑前エリア

GORO'S DINER/ ストア
cafe
Sign gaienmae/OFFICE/
PROTECh

■青山エリア

briftH
Chambres D'notes HANA
- 渋谷エリア

SPBS/SLOW JAM/
SEXON SUPER PEACE/
HMV 渋谷/RESPEKT
CAFE

■代官山／中目黒エリア

Sign daikanyama/
STITCH TOKYO/
styles 代官山/FRAMES/
UNIT/ FIG BIKE/ めかや/
combine books & foods/
PEdALED / GAZEBO

■六本木エリア

SuperDeluxe
- 三宿エリア

ナリワイ 下馬土間の家
H TOKYO
IID 世田谷ものづくり学校
三宿Web

■代田橋エリア

Chubby

■五反田エリア

GOTANDA SONIC

■浜田山エリア

狸サイクル

■下北沢エリア

気流舎

SUPPORTER'S NEWS

電動アシスト自転車レンタルのウェブサイト 「Becle（びーくる）」

ヤマハの電動アシスト自転車「PAS」のレンタル利用者向けウェブサイト「Becle（びーくる）」(http://becle.jp) がオープンしました。「Becle」は、「地球を感じる、地球を発見する」をコンセプトに、レンタルスポットの紹介やPASがあるからこそ楽しめる周辺地域情報を紹介し、レンタル利用を促進するサイトです。周辺地域情報については、地元の人ならではのショップや立ち寄りスポットや、実際にPASレンタルを利用された方が発見した楽しい話題や写真、動画の紹介なども続々公開していきます。Tokyo Design Flow のクルーも動画などで出演中!



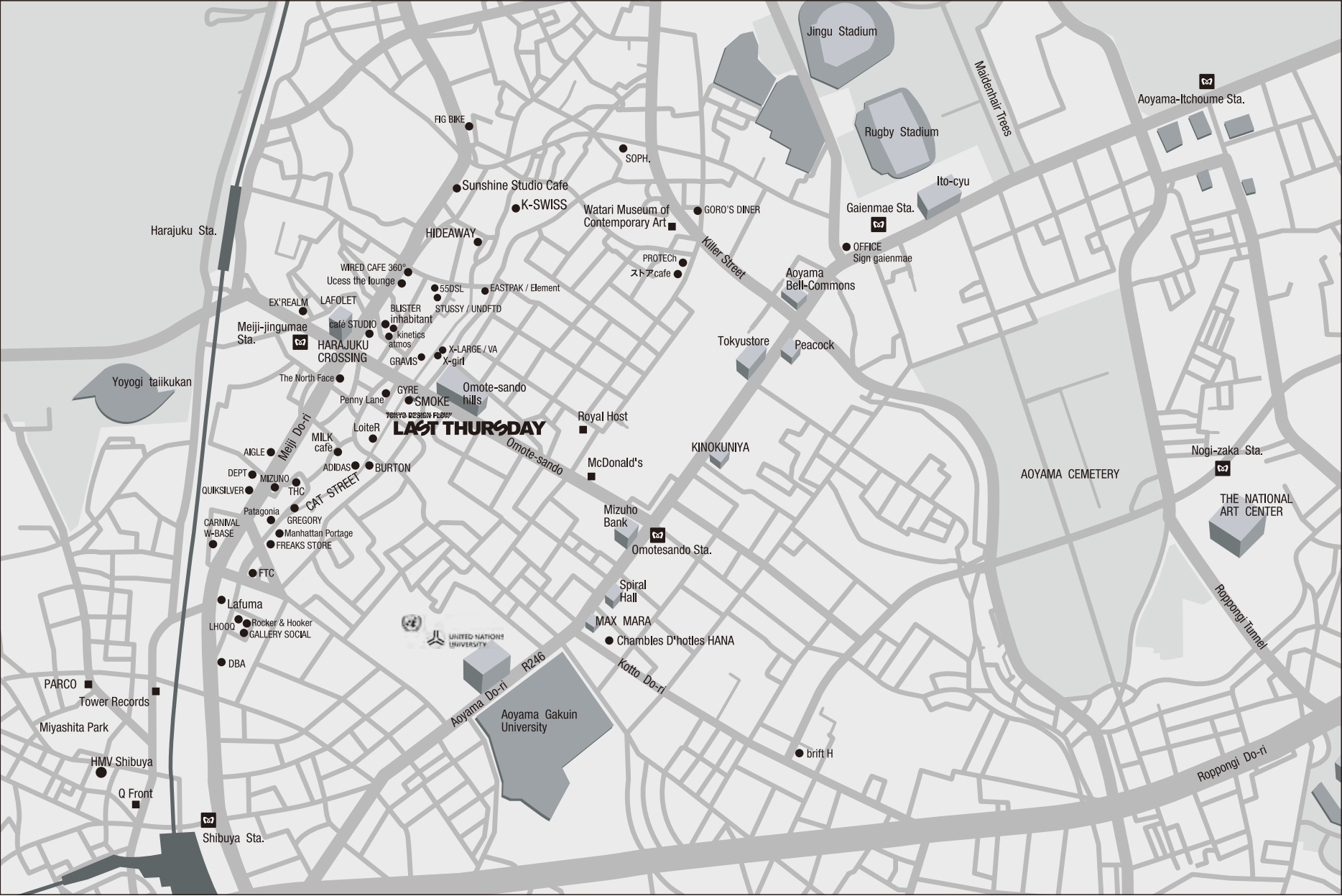
YAMAHA「Becle（びーくる）」
URL:http://becle.jp
公式Twitter:http://twitter.com/becle_jp
*Twitterではハッシュタグ「#Becle」で
地域のコネタを募集!
公式Youtubeチャンネル:
http://www.youtube.com/BecleChannel

「MeganeZine 2nd」



「MeganeZine 2nd」
発売日: 2010年 1月より
販売場所: Beams T
価格: 5,200円(税抜) / エド・テンブルトンがデザインしたオリジナルTシャツ付き
詳細: Star Graphics
(http://www.stargraphics.jp/)

ロサンゼルス発、日本のアーティストを集めたMeganeZineの2号発行! 東京そして、アメリカにてアーティスト支援及び、デザイン全般の活動をしているStar Graphics (スターグラフィックス) は日本とアメリカをデザインとアートで繋ぐべく18 ページのアート本「MeganeZine 2nd」を発行します。エド・テンブルトン (Ed Templeton) も参加しています! 日本ではBeamsT よりT シャツ付きで発売が決定しました!



●: TOKYO DESIGN FLOW paper 設置店舗

配布店舗募集 我々の考え方に共感し、「TOKYO DESIGN FLOW paper」を応援してくださる店舗様を募集中です。興味のある方はinfo@tokyodesignflow.comまでお問い合わせください。

ネット販売 雑誌のオンライン書店「Fujisan.co.jp」にて「TOKYO DESIGN FLOW paper」をお買い求め頂けます。http://www.fujisan.co.jp/magazine/1281683108

定期購読のお申し込み 定期購読をお申し込みいただけます。info@tokyodesignflow.comに「定期購読」と件名に記入し、お名前、住所、電話番号、部数をご記入の上、お申し込みください。

Schooling-Pad

デザインを知り、
クリエイティブリーダーシップを育む

**Not just knowledge.
Access to wisdom.**

www.schooling-pad.jp



AFTER WORDS

世間一般では、出版業界の斜陽が浮き彫りになり、本は売れない、雑誌も売れない、新聞も売れない。経済不況による広告費の減少、ウェブの存在感の増大、活字離れ……などなど、なんやかんやいろいろ言われていますが、正直聞き飽きた感ありますよね。広告色の強いフリーペーパーにしても、大量にありすぎて一冊の価値を感じることができるとはほとんどありません。そうした傾向の反動もあって、ZINEやリトルプレスが注目を浴び、7月に行われた「ZINE'S MATE」には多くの人が訪れ、個性に溢れた印刷物に出会えました。と、振り返ってみるとそんな状況のわけですが、結局、紙に印刷された文字が持つ意味って何なのでしょう。いま売れない売れないとは言われつつも、売ってる本も雑誌もちゃんとあります。となると、まず内容が良く、もっと言えばエディトリアルデザインも良いものが売れるし、評価されるという至極当たり前のことが浮き彫りになっているというのが現状です。これってチャンスですよ。みんな紙と文字の力に対して、真剣に向き合って、そこから本質的で、革命的な何かが生まれる。そういうわけで「TOKYO DESIGN FLOW paper」は来年ももちろんと狼煙を上げ続けます。そして今年一年、どこかで手にし、読んでいただいた読者のみなさま、僕たちにはない視点で誌面に力を与えてくれた制作協力者の皆様、この場を借りて御礼申し上げます。正直僕、2010年本当に楽しみです。

編集長 堀江大祐



LAST THURSDAY 11.26 2009 REPORT

未来を描く

text: TOKYO DESIGN FLOW

11月LAST THURSDAYのメインコンテンツはsense、vix、kazの三氏によるライブペインティング。4月30日のLAST THURSDAYでもコラボレーションし、それぞれの描いたものが、描いている途中はバラバラに見えても、最後には絶妙につながっていくことで、好評を博した三氏が、今回は一枚のキャンバスに“未来”を描いた。息の合ったコンビネーションで、互いのペンの流れを確かめながら、テンポ良くペインティングが進んでいった。図らずもこの日隣のビルから放たれていた赤いライティングも作用して、そこにできた空間の雰囲気は観るものをどんどんと描き出される世界に引き込んでいった。さらに空間に彩りを加えたのが、DJ DOKO氏(430)と大貫憲章氏。そして同時開催NIGHT PEDAL CRUISINGは11月25日から始まった渋谷の『SF50展』会場を経由して、東京のレトロフューチャースポットを巡った。



NEXT LAST THURSDAY >>> 1.28 2010

Next Gravity Revolution

革靴をベースにしつつも、スニーカーのメリットも取り入れることによって、都市の環境に合った機能性を備え、且つ買い手との関係性の中から、一点一点を自分の手で作り出していくビスポークシューズブランド「N.G.R.」の名倉誠人。ブランド立ち上げから二度目の展示会の最中、現在の「N.G.R.」を聞いた。

text: 堀江大祐 (Media Surf)

2008年末の展示会から一年が経って、いま二度目の展示会をしているわけですが、何か一年前と違うなと思うことはありますか？

一年前は、自分が「こういうふうと考えて作ったんですけどどうですか」とブランドを立ち上げて初めての展示会だったので、受け入れられるかどうか試していたところがありました。今回はその時よりも、自分の中で提案する素材や色にある程度、現時点での確信を持って展示会に望めた気がしています。

今回の展示会とはどんなテーマで望んだのですか？

人目を引くデザインというか、見た目の部分をやりすぎないように、ということは頭にありました。やはり靴は人が使うもので、身体の一部になるものなので、だからこそ見えない部分をちゃんとデザインしたいと思うんです。見た目より、機能に対する比重が大きいので、どんどん改良されていきます。一年前も展示した同じモデルでも、もう4～5回改良を加えています。ブランド名の「N.G.R.」は「Next

Gravity Revolution」の頭文字なのですが、常に同じではなく、どんどん次の段階へアップデートしていきたいと思っています。僕は自分で作って、自分で売って、自分でも履いているので、改良の参考になる情報が多いんです。

見た目は機能の派生ということですね。

例えば、アッパー（ソールより上の部分）を作る時、普通は平面から縫い出して型に入れる時に立体にしていけるのですが、僕は縫う時から立体にすることで、革に無理をさせないようにしています。その結果として見た目の部分もでき上がってきます。一足一足作る工程の中の、その瞬間のいいところをしっかりと掴んで作っていくことが重要だと持っています。部分部分もミリ単位で全然履いた時の印象が変わってくるし、その落としどころをみつめるのに何度もサンプルを作って、デザインが来るべきところに来たような落としどころを見つけています。だから時間がかかるんですけどね(笑)。

「N.G.R.」の魅力として「ビスポーク (BE

SPOKE)」ということもあると思います。

みんな意外と自分の足のことってわかっていなかったりするんです。それに、自分の足がスタンダードだと思っていることが多い。一人一人の足は、いいとか、わるい、とかじゃなくて、みんな違います。だから売り手と買い手はしっかり話した方がよくて、ビスポークの良さは、石膏で足形を取って、木型を作ることはもちろんその技術を含めて大切ですが、お客さんと話すことで「間」を縮めていけばこそ、良いものが作れるんじゃないかと思います。なので、靴の話だけでなく、服や音楽など趣味指向の話もよくするんです。まず人ありきで考えるようにしています。

今回の展示会ではレディースも登場していました。

僕の靴を見てくれた何人かの女性の方から、レディースもほしいという声があったので、今回1モデル作りました。メンズとレディースは勝手が違うので、難しいですが、面白いし、勉強になることもあります。今後も少しずつですが出していけたらと思っています。

今後のN.G.R.について教えてください。

もっとたくさんの人に届けたい、という気持ちはありますが、品質をキープすることとにバランスを取っていくのが重要なところ。お客さんには、気兼ねなく、いいもわるいも言ってもらえるような関係性を築いていきたいですし、作り手も買い手もお互い正直でいれたらいいなと。そういうことをしていると商売にならないと言われるんですが、だからこそ突き詰めていきたいで

す。その先で、コンビニに行く時でも、どんな時でも「気づいたら履いてた」となるような靴ができれば一番良いかな、と思っています。



Makoto Nagura
DESIGN / CRAFT. 2002年靴木型制作会社に入社。五年間レディース、メンズのシューズモデリストとして活動。07年スポーツメーカー契約選手オーダーメイド制作会社に師事。08年BE SPOKE SNEAKER「N.G.R.」を立ち上げる。

N.G.R.products
www.ngrproducts.com



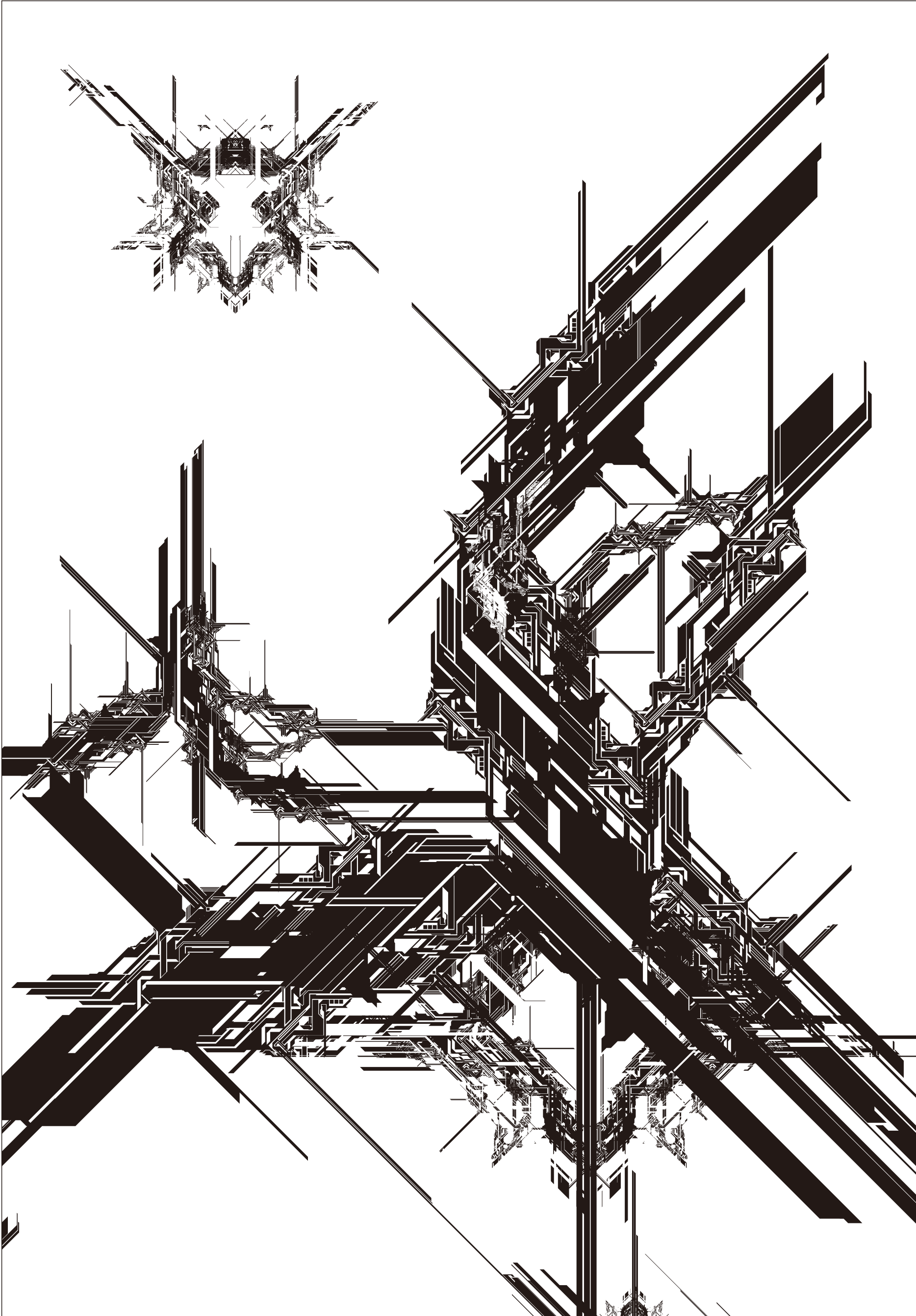
KAFKA CHAKK MK2



KAFKA 52 PLANE TOE BT



KAFKA PLOD





E V E O F T H E R E V O L U T I O N

MONTHLY EVENT 

LAST THURSDAY

ART, FASHION, FOOD, TRAVEL, SPORTS, MUSIC and DESIGN.

www.tokyodesignflow.com